

#1 選択

JK 課 OG と
現役メンバーが
選ぶ道

「あの町、なくなつてほしくないな」。
どこにいたとしても、
この気持ち、この先も大切にしたい。



ちかの
小谷実乃さん（日南町）
日南町から鳥根県立横
田高校に進学した高校
3年生。田中さんとは米
子市で開かれたワーク
ショップで出会う

まひろ
田中真優さん（根雨）
米子南高校に通う高
校3年生。将来は製菓
の道に進みたいと夢を
語ってくれた

2年前、日野町に誕生した
JK（＝地元改革）課。

それぞれ、
学校や地域で活動の場を広げ
新たな出会いや目標を見つけた
メンバーがいる。

一方、JK課を卒業しても
日野とかかわりを持ちながら
それぞれの夢に向かって
一歩ずつ前に進むメンバーも。

「日野で働きたい」
「ふるさとへの思いを忘れず、
いつかは戻ってきたい」

たとえ町を離れたとしても、
この町を思ってくれる若い世代は
着実に育っている。

2人の出会いは、今年3月に開かれた高校生と社会をつなげるワークショップ（山陰アフタースクール）でのこと。広く地域の事業所を知ってもらい、将来地域に貢献できる人材を育てようと企画されたものだ。

—2人は何に取り組んだの？

田中 ワークショップで「カレー工房ダーニャ」の門脇さん（松江市）とシイタケやトマトなど地元産品を使ったカレーを作ることになったんです。—実際に作ってみてどうだった？

小谷 初めは「難しいのかな？」と思っていたんです。2人で地元食材を扱っているお店を調べたり、実際にお店で調理したり。門脇さんのおかげなのは当然ですが、思っていたより簡単にできました。何事もやっ



地元産品を使ったカレーが完成。地域に貢献したいという思いは、こうした機会を通して少しずつ養われていくのだろう（中央：店主の門脇幹尚さん）

てみないと分からない。行動することが大事だと感じました。—この経験をどう生かしたい？

田中 高校の課題研究でマーケティングとカレーの商品開発をしようと考えています。今回作ったカレーも、ふれあいまつりで提供したいですね。

地元へ帰る者、地元を離れる者。

2人の「選択」とふるさとへの思い

—2人ももう3年生。将来のことはどう考えてる？

田中 高校卒業後は製菓の道に進みたいので町を離れることになりそうです。でもいつかは帰ってきたい。そして、みんなが気軽に集まれる場所づくりとか、何かしら地域づくりに貢献したいと考えています。

小谷 高校は県外だったので、卒業後は日南町に帰り、日野郡

を盛り上げていきたい。ふるさとを離れていたからこそ、その魅力にあらためて気づかされたんです。

—2人にとって「関係人口」って何だと思ってる？

田中 町出身者でもそうでなくとも、他人事じゃないって思えることかな。

小谷 そうだね。「あの町なくなつてほしくないな」と思ってくれる人。これからは何かしら地元をサポートしてあげたらうれしいです。



坪内明日香さん
（米子市）
鳥取短期大学2年生。勉強の傍ら、町のイベントや行事に積極的に参加

JK課OGの坪内明日香さんは現在、大学で保育士の夢に向かって勉強の日々を送る。そんな彼女の夢に、「日野町で」という選択肢が加わった。

—保育士への勉強は順調？

坪内 まずまずかな（笑）新たな科目を学んだり、保育実習に行ったり。夢に向かって頑張ってます！

—チャンネルひのでひのっこ保育所での模様が放送されていましたね。

坪内 春休みを利用して、ひのっこ保育所でのボランティアをお願いしました。子どもたちはみんな素直で人懐っこい。やっぱり自然に囲まれて育つたり、地域の皆さんの人柄だったりするせいなのか。ひのっこを選んだのは、そういうところにあこがれたからです。



ひのっこ保育所でボランティア。短い間ながら、保育士への思いをさらに強くしたという（写真：チャンネルひの提供）

—JK課を卒業しても日野町に積極的に関わってくれている坪内さん。活動を通して変わったことは？

坪内 実は年上の男性と話すのが苦手だったんです。でも、ふれあいまつりでドーナツを売ったり、そばの早食いに参加したりする中で、自分から話していきけるようになったかな。保育実習の中でも、「実習生だから」と遠慮せず、先生や子どもたちと積極的にコミュニケーションをとっていききたいと思えるようになりました。

—もう立派な「関係人口」の一人ですね。

坪内 私にとって関係人口は、「町と人をつなぐ懸け橋」だと思っています。私は橋を渡って日野町に行きたい方ですけど（笑）今度は私が誰かの懸け橋になっていきたいです。